

表1 学生の実習姿勢の自己評価(平均値データ)

			15期生(n=45)	
設 問 項 目			平均	SD
学 生 の 姿 勢	問1	オリエンテーションの内容を十分に理解して実習を始めた	3.57	0.18
	問2	今までの学習内容を活用しながら実習を展開した	3.47	0.21
	問3	日々の学習を振り返りながらそれを生かして実習を展開した	3.66	0.22
	問4	対象者と適切な関係を築きながら実習を展開した	3.84	0.09
	学生の実習姿勢 平均		3.64	0.18

表2 学生の実習に対する評価(平均値データ)

			15期生(n=45)	
設 問 項 目			平均	SD
実 習 に 対 す る 評 価	問5	指導者は必要に応じて助言・指導・説明などを行った	4.03	0.24
	問6	指導者の説明は具体的でわかりやすかった	3.96	0.27
	問7	指導者は学生が困っているときに適切に対応してくれた	3.96	0.27
	問8	指導者は学生のあなたに合わせて指導した	4.00	0.24
	問9	指導者は学生を一人の人間として尊重した	4.14	0.20
	問10	指導者は学生が自分の考えに基づいて行動することを尊重した	4.08	0.19
	問11	指導者の学生に対する質問の量は適切だった	4.01	0.26
	問12	指導者が学生に期待する行動は適切だった	3.93	0.26
	問13	教員と指導者の連携がよくとれていた	3.60	0.15
	問14	教員と指導者の指導に一貫性があった	3.71	0.29
	問15	実習の目的・目標と実習の内容や方法は合っていた	3.91	0.22
	問16	実習の課題などの量は適切であった	3.93	0.23
	問17	記録物や提出物に対して適切な指導・助言があった	4.00	0.21
	問18	指導者と学生間のコミュニケーションは良かった	3.87	0.29
	問19	ハラスメントに対する配慮がなされていた	3.88	0.16
	問20	今回の実習は総合的にみて良かった。	3.91	0.37
実習に対する評価 平均			3.93	0.24

平成27年度(15期生) 実習評価集計結果

I. 実習評価集計について

短期・長期Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの各実習終了後、調査用紙を用いて無記名によるアンケート調査を実施。調査用紙は、学生の姿勢(問1～4)、実習評価(問5～19)、総合評価(問20)から構成され、5段階評定を用いている。それぞれの実習時期別に平均値を集計する方法で実施した。

II. 集計結果

1. 実習評価実施状況

実施施設数: 短期 (PT: 25施設 OT: 20施設)
長期Ⅰ期(PT: 26施設 OT: 19施設)
長期Ⅱ期(PT: 26施設 OT: 19施設)
長期Ⅲ期(PT: 26施設 OT: 19施設)

実施率 : 短期 100% 長期Ⅰ期 100% 長期Ⅱ期 100% 長期Ⅲ期 100%
回収率 : 短期 100% 長期Ⅰ期 100% 長期Ⅱ期 100% 長期Ⅲ期 100%

2. 学生による「実習評価」結果

1) 学生の実習姿勢に関する自己評価(平均値データ) (表1)

学生の実習姿勢で自己評価が高かったのは、「問4 対象者と適切な関係を気づきながら実習を展開した」(3.84±0.09)であった。評価が低かったのは、「問2 今までの学習内容を活用しながら実習を展開した」(3.47±0.21)であった。

2) 学生の実習に対する評価(平均値データ) (表2)

総合的な評価の問20を除いた15項目中上位3項目は、「問9 指導者は学生を一人の人間として尊重した」(4.14±0.20)、「問10 指導者は学生が自分の考えに基づいて行動することを尊重した」(4.08±0.19)、「問5 指導者は必要に応じて助言・指導・説明などを行った」(4.03±0.24)であった。下位3項目は、「問13 教員と指導者の連携がよくとれていた」(3.60±0.15)、「問14 教員と指導者の指導に一貫性があった」(3.71±0.29)、「問18 指導者と学生間のコミュニケーションは良かった」(3.87±0.29)であった。

III. 分析・対策

1) 学生の実習姿勢に関する自己評価

「問4 対象者と適切な関係を築きながら実習を展開した」の項目において自己評価が高い結果となった。本学院では、1・2年次に、学生を模擬患者とした実技試験(OSCE)を実施しており、3年次には、教員が模擬患者となり、対人交流・評価・介入を想定したOSCEを行っている。OSCEの後学生へのフィードバックを行い、対人交流場面における心構え、評価や介入における注意点等を指導している。この取り組みにより、対象者とのコミュニケーションを確立することの大切さが臨床実習の場であらわれたものと捉えている。一方で、「問2 今までの学習内容を活用しながら実習を展開した」の項目で、低い結果となった。本学院のカリキュラムは、多様な現場に対応できるよう幅広い分野を網羅する形となっており、特定の分野のより深い知識やスキルの教育にまで至っていなかった。そのため、来年度の臨床実習に向けて、現行のOSCEを強化し、臨床実習前の学生の知識やスキルに関する習得意識を高め、これらの活用を促していく。加えて、日々の授業で習得する基礎的な知識を基に、臨床現場につなげることが求められることを、日々の学生指導や実習前のオリエンテーションで学生に伝達し、臨床実習に臨む学生の目的意識を高めていく。

2) 学生の実習に対する評価

総合評価を除く15項目のうち、臨床実習指導者の指導方針・指導方法、学生の尊重・配慮といった8項目(問5～12)の平均がいずれの問いにおいても高い結果となった。指導者が、本学院の指導方針に理解を示し、学生の主体的な臨床実習の展開を尊重していただいている結果と捉えている。一方で、教員と指導者間の連携といった2項目(問13・14)において、低い結果となった。今年度から、指導者及び学生と電話等を主とした連絡・相談体制をとっている。指導者及び学生とは、こまめに連絡をとるようにし、必要に応じて、実習地を訪問し、指導者との協議・学生指導を行ってきた。しかし、学生の視点では、不十分さを感じており、指導者の方針と教員の指導に差異を感じた者が少なからずいた。改善策として、実習指導者会議等を通じて、本学院の臨床実習における指導方針を明確に示し、また、指導者研修会による指導方法の改善、更に、学生の意見などを取り入れ、実習に取り組む意欲が湧く改善策を講じていく。その他、数名の学生ではあるが、指導者とのコミュニケーションに行き詰まりを感じた学生がいた。毎年、一部の学生が実習地の環境・指導者との関係性に行き詰るケースがあり、現在、臨床実習地の内容を見直し、詳細な調査を行っている。今回のアンケート調査を通じて、学生の臨床実習先を定める基礎資料とし、また、その都度、該当学生の状況に合わせて教員が仲介・サポートしていくことにする。